

クラウドスイッチャーで
配信してみた

名古屋テレビ放送株式会社 方便 剛

- ・配信案件は増加するものの、
ケーブル敷設 / ハードスイッチャーの知見しかなかった
→ ケーブルレス / ソフトウェアスイッチャーの知見を獲得したい！
- ・ソフトウェアスイッチャーが動く高スペックPCが不足
→ クラウド！

系統図

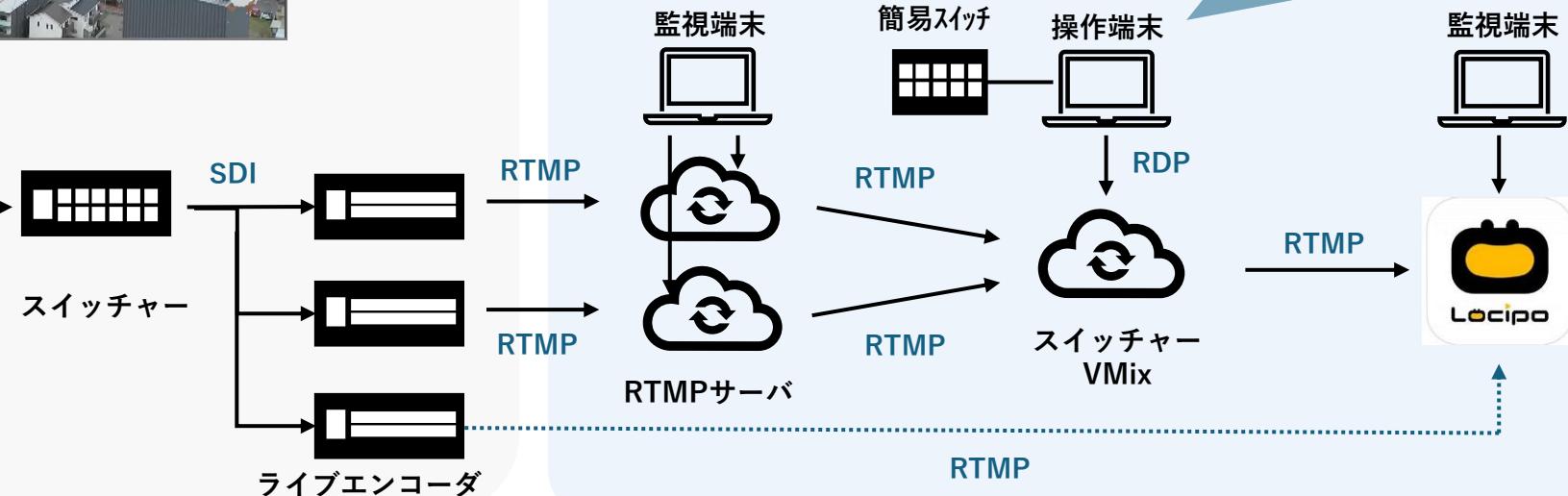


```

graph LR
    A["Aサブ  
(Mあり)"] --> Merged[ ]
    B["天カメ  
(本社)"] --> Merged
    Merged --> Output["OAタリー連動  
SDI切替器"]

```

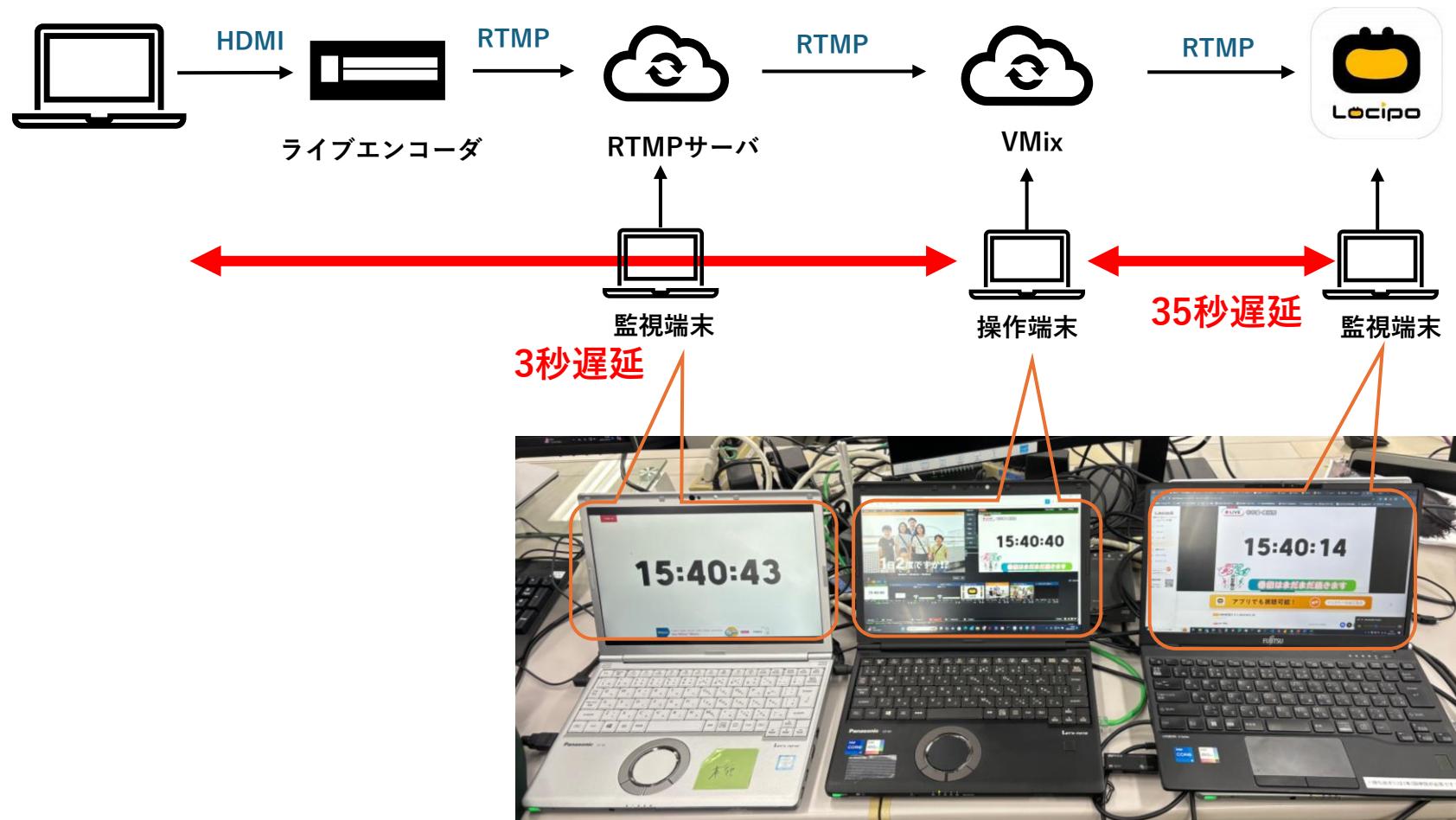
既設
システム



遅延検証

クラウドスイッチャーによる遅延は3秒程度で大きな影響はないことが確認できた

■検証系統



まとめ

- **操作性**

リモートデスクトップだったが、スイッチャー操作に違和感なし。

vMixをローカルで動かすにはスペックが不足しそうな、2018年製ノートPCにて操作できた。

- **費用**

EC2の使用料のみで、約63\$/月（日割りで確認できないので、設定や事前検証の費用も含む）

EC2のスペック

- スイッチャー操作が可能な高スペックインスタンス

Windows、g4dn.2xlarge、35GiB

- RTMP受信サーバ

Amazon Linux、t2.small、15GiB

まとめ

- ・**外部コントローラ（Stream Deck +）の接続**

ローカル環境のみでなく、リモデ先でも使用することができた。

マウス操作でのスイッチングでは操作ミスのリスクがあったため、物理スイッチには価値があった。

- ・**同期**

複数入力素材の同期ずれの追い込み方は未検証でした

→ 後日別の配信案件の際に、vMixのLatencyという機能にて、追い込むことはできた

- ・**苦労した点**

RTMPサーバの固定IPの設定に苦労した。

EC2を起動するたびに、IPアドレスの設定変更が必要だった。

→ Elastic IPを使えば簡単でした